

遍路道のシマサルナシ(高知県・室戸岬)

— 何処よりの地へ —

室戸青少年自然の家で開かれた連合農学研究科のサマーセミナーの後、シマサルナシの探索に岬周辺をめぐるしました。

ダイナミックな岩の造形に圧倒されながら、金剛頂寺への参道をゆるゆると進んでいると、何やら元氣よく伸びた蔓が目にはいりました。手繰り寄せると、シマサルナシ。わずかに実がついている枝も散見されました。柔軟な葉柄をもつ光沢のある葉は、太平洋岸の強い日差しにも耐え、猛烈な台風が常襲するこの地でも、しっかりと枝葉を伸ばし、根付いていました。

それにしても、どのようにしてここにたどり着き、芽生えたのでしょうか。黒潮に乗って南方から流れ着いた果実から種がこぼれたのか、渡り鳥がいずこからか運んできたのか、シマサルナシの辿った遍路道に想像を巡らせながら、家路につきました。

二〇一〇年八月二十七日

